

< 登壇企業 > SONoALS株式会社

< 会社概要 >

◆設立 2025年5月

◆代表者名 佐伯 千寿(神経内科医)

◆本社所在地 神戸市中央区

◆事業内容

ウェアラブル超音波×AIによるALS(筋萎縮性側索硬化症)の
非侵襲診断・創薬支援プラットフォーム

①診断スクリーニング事業

- ・筋のぴくつき(線維束性収縮)を装着型超音波で検出しAI解析
- ・検診センター・専門外来へ件数課金で提供

②薬効バイオマーカー事業

- ・同じ機器・AIで薬の効き目を数日で可視化し製薬の治験を支援
- ・2026年12月の中間解析が企業価値の変曲点

◆技術・サービスの特徴

- ・代表は現役の神経内科医。大学病院のALS外来と連携し、競合が再現できない臨床データを継続取得
- ・針筋電図より早期に現れる指標を非侵襲・装着型で捉える

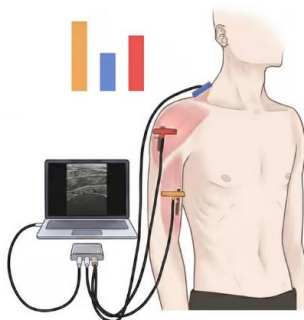
< 競合品・サービスと差別化のポイント >

- ・従来の針筋電図は痛みを伴い専門施設限定。当社は非侵襲・装着型で検診センターでの一次スクリーニングが可能
- ・大学ALS外来+連携病院の神経変性疾患データは後発が再現困難

世界初 fasciculationの定量化

ウェアラブル超音波×fasciculation解析AI

ウェアラブル超音波機器とfasciculation(筋肉のぴくつき)解析AIを融合し、持続モニタリングとfasciculation自動検出をすることで世界初のfasciculationの定量化を可能にします。



ALSが治る世界の実現、を使命に。

SONoALS株式会社はウェアラブル超音波機器とfasciculation(筋肉のぴくつき)解析AIの融合により、筋萎縮性側索硬化症(ALS)の超早期診断と薬効評価サービスを提供する革新的スタートアップです。CEOはある薬を見つけ、数日間でfasciculationが10分の1以下に減り、筋力が改善した原体験を元に、fasciculation回数がバイオマーカーになるのではないかと医療機器開発を始めたのが会社設立のきっかけです。

ウェアラブル超音波機器のプロトタイプ

- ✓ 中継器の採用により超音波プローブを小型化し、皮膚に直接貼付可能な設計を実現
- ✓ ノート型PCに接続し、約20分間の安静状態で4筋同時貼付測定・高画質録画が可能
- ✓ 取得データはAI解析サーバーへ送信され、解析結果を表示

fasciculation定量化が叶える ALS 研究と展望

サービス

ALSの非侵襲的な超早期診断

- ・fasciculationは針筋電図異常よりも早期から出現するバイオマーカーの一つです。

薬剤治験支援

数日間で反応するfasciculationバイオマーカー

- ・治験前のヒトでの薬剤スクリーニング
- ・治療反応群(レスポnder)の選定
- ・治験期間の大幅な短縮

を目指します。



装着・測定イメージ

